

令和 4 年度 豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会 第 2 回会議 議事要旨

【日 時】令和 4 年（2022 年）7 月 12 日（火）18 時 00 分～19 時 40 分

【場 所】豊中市役所第一庁舎 4 階第 1 会議室、Zoom による WEB 会議

【出席者】石川委員、岸本委員、高橋委員、吉村委員、田村委員、古川委員、重長委員、濱田委員

【欠席者】なし

【事務局】榎本都市経営部長

都市経営部経営計画課：森田、坂本、田中、上田、松田

【傍 聴】なし

【案 件】1. 総合戦略の進捗状況の検証の諮問について

2. 昨年度の振り返り

3. 総合戦略の進捗状況の検証について

4. 令和 3 年度地方創生 関係 交付金に係る事業報告について

5. その他

【資 料】資料 1 令和 3 年度豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会審議結果について

資料 2 第 2 期総合戦略の KGI と KPI の進捗状況について

資料 3 転出入アンケートについて

資料 4 令和 3 年度地方創生推進交付金に係る事業報告について

参考 1 第 2 期豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略

参考 2 人口に関する他市比較

参考 3 転出入アンケート質問用紙

参考 4 改訂版転出入アンケート質問用紙

【会議録】下記のとおり

■開会

■成立要件の確認（事務局）

会議の成立要件は、規則第 6 条第 2 項のとおり、委員の過半数の出席が必要であります。本日は委員総数 8 名中、全員にご出席いただいておりますので、成立要件を満たしております。また本日、傍聴者は 0 名です。

■資料の確認（事務局）

■案件 1. 総合戦略の進捗状況の検証の諮問について

（榎本都市経営部長から高橋会長へ諮問書の手渡し）

■案件 2. 昨年度の振り返り

会長

案件 2 「昨年度の振り返り」から始めたいと思います。事務局からご説明をお願いします。

事務局

(資料 1 「令和 3 年度豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会審議結果について」説明)

会長

ただいまの説明について質問、意見はございませんか。

委員

関係人口について、例えば、阪神タイガースファンでファンクラブに入っていて甲子園球場に月に何回か行くというのは関係人口に定義付けられるのでしょうか。

事務局

国の定義では大きく 3 つにわかれています。豊中市に住んでいる定住人口、観光などで訪れる交流人口、実際に豊中市に仕事などで来られる関係人口です。お話のあった阪神ファンの場合、西宮市に興味を持たれているという点では関係人口に近いところではあるかと思います。わかりやすいイメージでは、ふるさと納税で、その地域に興味を持たれてそこを応援しようというイメージが関係人口かと思っています。

委員

ホームページなどでみると関係人口といえば、週末だけ農業に行くという感じで紹介されました。ふるさと納税は、以前は結構寄附しましたが、どちらかといえば返礼品狙いで、応援しようという思いではなかったもので、あまりピンとこない感じがします。

会長

以前は定住人口と交流人口という言い方をしていました。どちらかという観光客やビジネス出張などを刺すような整理の仕方でした。しかし、もう少し地域との関わりを深くとらえていくということで関係人口という括りができあがったと認識しています。今のお話の場合、甲子園球場に行くということであれば、どちらかという以前の交流人口の部類になるのではないかと思います。特産品に対する関心かも知れませんが、ふるさと納税をした理由のいかんは、行政側のみなさんにもわかりませんので、関心を持っていただけたと思います。以前の他市の事例のように、他所の物を持って来てそれを返礼品に充てるところは今ではなくなってきているので、どちらかという地域に関わりのあるものをみなさんに関心を持っていただけたと整理ができるのではないかと思います。まちそのものに対する関心だけではなくて、特産品や観光資源など様々なものに関心を持っていただいて、何かのきっかけで交流ができるような流れを作ってもらえたらという最初の一步なのではないかと思います。関係しているという点では仕事で通勤、通学しているなどのほうがわかりやすいかもしれません。どこに線を引くかですので、こちらの委員会では

ふるさと納税も含めて関係人口とし、議論をさせていただきたいとのことでご理解いただけたらと思います。

委員

ふるさと納税の話がありましたが、寄付も含めて外から寄付をいただくときに用途を限定する仕組みがあります。例えば、豊中のまちづくりのために活かしてほしい、子どもたちのため、NPOなどのボランティアに使ってほしいなどの様々な用途があります。返礼品があるからという点もありますが、用途を限定して豊中がこうなってほしいとお金を投入してくれる意味では、豊中のことを少しでも考えてもらっている方と捉えられ、関係人口のひとつとして定義してもいいのではないかと議論があったことを記憶しています。

関係人口は、もっと幅広く考えられ、豊中に少しでも関心を持っていただいた人たちを巻き込むことができれば、より多くの人たちに、定住まではいなくてもちょっと寄り添っていただける体制がとれるのではないかと思います。きっかけは返礼品だったとしても、市からありがとうございましたと届いたものにまちのことが書かれていることで、知らなかったけどこんなにいい所があるなら行ってみようといったきっかけにもつながるのではないかと思います。そのように、どんどん豊中を知ってもらうきっかけをつくることで、より深い意味の関係人口につなげていけるのではないかと、市を活性化させる意味ではそのような取り組みも重要なのではないかと理解しています。

会長

委員からご意見をいただいたことで、そもそも関係人口とは何かとの理解ができました。他にご意見いかがでしょうか。

委員

違和感があったのですが、いま説明を聞いて納得しました。ただ、ふるさと納税だけではないとは思いますが。

委員

関係人口の中のひとつがふるさと納税との考え方かと思えます。KPI で何を指標にするのかとなったときに、通勤通学で来てくれる人たちも関係人口ですし、ふるさと納税をしてくれる方も関係人口の一人としてカウントしてもいいのではないかとということです。関係人口のいろいろな種類の中のひとつがふるさと納税であり、関係人口＝ふるさと納税の人だけということではないとご理解いただければと思います。

委員

その市で働いたら奨学金がもらえるなど、大学でこちらに来て、卒業後もそのままここで働き続けられるシステムみたいなものがあるとおもしろいと思います。

■案件 3. 総合戦略の進捗状況の検証について

会長

続きまして、案件 3「総合戦略の進捗状況の検証について」事務局から説明をお願いします。

事務局

(「資料 2「第 2 期総合戦略の KGI と KPI の進捗状況について」説明)

会長

ただいまの説明について質問、意見はございませんか。

委員

基本目標(2)の補足指標と基本目標(3)の補足指標で、教えていただきたいところがあります。

基本目標(2)の補足指標について、コロナの関係で令和 2 年から 3 年にかけて数が大幅に減少していますが、その一方で、基本目標(3)の補足指標の「コロナ総合相談窓口の相談件数」は増えています。基本目標(2)の補足指標については、おそらく、お金の話や生活困窮も含めて、問い合わせや手続きなどがあって令和 2 年に急に増えたものが令和 3 年には落ち着いて件数が減少していると見ています。基本目標(3)の補足指標で相談件数が増えている点については、お金の話ではなくて精神的なものかと思うのですが、増えている要因がわかれば教えていただきたいと思えます。

事務局

基本目標(2)の補足指標については、ご意見のとおり、令和 2 年度は、コロナ禍で市としても様々な施策を実施しましたので、それに関する相談が多くなっており、特に家賃補助をする住居確保の給付金のご相談が多く、令和 2 年度は再支給もしておりましたので件数が大幅に増えたのが、令和 3 年度は落ち着いたという数値になっています。

コロナ総合相談窓口の相談件数ですが、こちらは実質令和 2 年度 7 月から開設をしており、月当たりの相談件数で見ますとあまり変化がなく、令和 2 年度も令和 3 年度も同様の件数の相談を受けている状況となっています。保健所につないでほしいといったような相談が多いと聞いています。

委員

セーフティネット保証は、今回はお客様への周知徹底が非常にはやかったのと、豊中市もそうですが、いろいろな認定機関にすぐはやく認定をしてもらい、すばやく行きわたったという感覚があります。

基本目標(2)のところ、事業所数、従業員数が増えているのは非常に喜ばしいことですが、一方で、これからなるのでしょうか、「④開業率」は豊中市が働く場をつくるまちとして発展していく上でやはり重要だと思います。具体的に「④開業率」「⑤廃業率」に関して取り組まれている施策があれば教えていただけたらと思います。

事務局

開業に関しては、起業の相談を受ける起業・チャレンジセンターというところがあり、基本的にはそこで起業を希望する方の相談に個別にのるなどの取組みを行っています。ただ相談にのらせていただくだけではなく、いかに継続していくかが非常に大事な点になりますので、そこも含めて継続的なフォローもしています。運転資金の調達のご相談も、金融機関、商工会議所様と連携をしながらやっています。「⑤廃業率」に関しては、なかなか難しいところですが、事業承継に関するセミナーや個別のご相談対応などを行っています。

委員

起業・チャレンジセンターは、結構広く知れ渡っていますか。

事務局

起業を希望される方は、いろいろなツールでお調べいただいて、ご来館いただくケースがあります。あと起業セミナーというのを定期的で開催していますので、その際に起業される方をつないでいくことがあります。

委員

「基本目標(3) 地域でつながりささえあうまち とよなか」の補足指標の「アプリによる見守りカバー率」で、令和2年度 19.5%に対して令和3年度 100%になっています。このサービスは関西電力送配電と豊中市が共同で2020年10月から進めているもので、内容は端末を持った子どもさんが町中のコンビニや電柱についている検知ポイントを通過することで位置情報がわかる仕組みとなっています。導入校区41校区とは豊中市内の全小学校区に導入されて100%ということかと思いますが、小学生以外に今後対象を広げて、例えば保育所、幼稚園、高齢者を対象にするなどの予定・計画があるかどうかお聞かせいただきたいと思います。

事務局

ご意見のとおり、現在、小学生を対象に全小学校区に導入をしています。今後は、認知症の高齢者の方は家族の方が不安になることがありますので、検知ポイントを利用し位置情報を取得するサービスとして、そういったことに活用できないかと検討しているところです。

委員

基本目標(3)で「地域自治組織の数」がありますが、これは小学校区の自治会のまとまりのようなものでしょうか。

事務局

小学校区内にはいくつかの自治会があるかと思います。この地域自治組織とは、基本的には小学校区単位で編成するもので、各自治会の他、自治会と関連する防災や福祉など、小学校区にある各種団体同士がつながって一つの組織とするものです。各小学校区の様々な分野の情報を連携しながら活動を進めていこうと、現在8校区で組織されています。

委員

41 校区あるなかの現在 8 校区しかないということでしょうか。

事務局

地域自治組織を結成する取組みは、ここ 10 年ぐらいで進めてきたものです。地域においては、自治会の加入率の低下や、メンバーの固定化・高齢化など地域活動がなかなかスムーズに進まないといった課題がある中、そういった地域で活動をどのようにしていくかということのひとつの在り方として、この地域自治組織の取組みを進めているところです。

多くの団体と話を進める必要がありますので、作ろうという動きを始めてから数年単位で結成されるものになっています。この数年コロナでなかなかそういった集まりがしばらく、結成に向けての動きが進まなかったというところもあります。

委員

地域自治組織はいろいろな団体がまとまるような組織だったと思います。目標値が 15 校区となっています。いろいろな団体をまとめていくには大変な苦勞もありますので、41 校区のなかで 15 校区でもできたらすごいと思っています。確認ですが、7 校区 (H30)、8 校区 (R2)、8 校区 (R3) と増えなかったのは、先ほどご説明がありましたコロナの関係でストップしていることだけが要因でしょうか。それともやはり一体的な組織をつくるのには難しい点があるのでしょうか。

事務局

伸びなかったのには、コロナはここ 1、2 年では大きな理由としてありますが、やはり今ご指摘いただいたように様々な団体間の調整というのは非常に難しいということがあります。市としては全ての校区に地域自治組織ができることを最終目標としているわけではなく、ひとつの選択肢として地域自治組織というのを選んでいただけるようご提案していきたいと考えています。地域によってはそれぞれの自治会が活発に活動されていて、わざわざそれをひとつにまとめることのほうが、「なぜ」というところもあります。一方で、どこの団体も担い手が同じ顔ぶれといった地域では、ひとつにまとめたほうがいいのではないかと地域もあります。地域の事情はそれぞれですので、一定の目標として高めかもしれませんが、15 校区と掲げています。

委員

8 団体がどこか、うまくいっているかを教えていただくことはできますでしょうか。

事務局

最初にできたのは、千里ニュータウンにあります東丘小学校区で平成 24 年、今から 10 年前になります。東丘小学校区のほか、北丘小学校区、小曾根小学校区、刀根山小学校区、南桜塚小学校区、高川小学校区、野田小学校区、上野小学校区の 8 校区で地域自治組織が結成されています。地域自治組織の設立に向けて、今検討している地域は、豊島小学校区、庄内小学校区、新田

南小学校区となっています。その地域の状況に応じて市として働きかけと取組みをさせていただいています。

委員

保育所の待機児童数についてです。ゼロが続いているのはすごいことだと思います。保育園が足りるところまで作ればある程度安定するといったことや、少子化で2000年頃の子どもの出生数と比べてまた減っているといったことがあるかもしれませんが、ゼロがキープされている要因と、今後これが続くのかどうかということ、またゼロをキープしていることは、国全体として、だいたいそういうものなのかなどの状況について、ご存知でしたら教えてください。待機児童数ゼロというのは住まいを選ぶときに、小さい子どもがいる家庭では思い通りに保育園に入れるのかなど大きいことだと思いますので、お願いします。

事務局

待機児童数ゼロは5年連続継続しています。様々な手法使ってそうなるように動いています。

豊中市の場合、一番は保育所を認定こども園に移行することで、保育の定員を増やすことができているという点があります。また、幼稚園にも一時保育の協力をいただき、通常の幼稚園以降の延長保育や一時保育を利用していただくことで保育所に入れなくても幼稚園を活用して待機児童にならないようにするといったことも進めています。これらの取組みは、既存の民間の保育所に、認定こども園にするための進め方などを丁寧に説明させていただきながら進めてきており、それがこの5年間の成果となっていると考えます。今後も、このような丁寧な取組みを進めて待機児童数ゼロを継続していきたいと考えています。

委員

近隣市の吹田市や箕面市は、同じような状況でしょうか。

事務局

吹田市は今確認しましたら、ゼロになっています。

委員

今の点について、小規模保育が大幅に増えているのではないかと思います。

どこの保育園に入れるかはとても重要だと思います。ただ待機児童ゼロでどこかに入れたらということになると、希望する保育園ではなくて小規模保育園に入るしかないなどが起こり、求めている保育を受けられるかどうかとは違ってきます。また、兄弟が違うところに入ってしまったとしても待機児童はゼロという形になります。待機児童ゼロは、保育の質の話ではないので、これから安心して産み育てられるか、子育てしやすいまちかといった回答にもつながってくることで、待機児童ゼロだけでは喜ばしいこととは思えないと考えます。数字で見たらゼロ、これで果たして大丈夫なのかと感じます。豊中市は幼稚園も多く、たくさんの幼稚園、保育所があるところだと思いますので、望まれているところに入られている方が多いのかもしれませんが、住

民の満足度につながる待機児童ゼロということを考えてときに、そういった視点もとても大切ではないかと思えます。

事務局

それに関しましては、待機児童ゼロを維持し続けるだけではなく、やはり保育の質は大事ということで、「教育・保育のガイドライン」をつくっています。一定の質を確保していこうと、ガイドラインに基づき各園が自分たちで実施していくことで、自分の所の弱みや、強みを知ることにもなり、豊中市の中で教育・保育がなるべくデコボコにならないよう平均化していくための取り組みをしています。

委員

基本目標(4)の「子育てがしやすいまちだと感じている市民の割合」がとても高くて素晴らしいと思いますが、何にみなさんが満足をされているかが、もしわかっていれば教えていただきたいと思えます。基本目標(5)の「保育・教育環境が充実していると感じる市民の割合」も同様に、こういう点が充実していると感じているのか、もしわかれば教えていただきたいと思えます。

事務局

市民意識調査では、「子育てがしやすいまちだと感じていますか」について、「思う」「そう思う」を選んでいただいた方に、その理由を聞いています。その回答結果をみますと、「多様な保育サービスが充実している」を選んでいただいております、その理由となっているかと思えます。また、「地域の子育て支援があるから」「子育てに配慮している施設が充実しているから」といった点も選択されており、理由となっている点かと思っております。先ほどの話とつながりますが、多様な保育サービスが充実していること、一時保育などのいろいろな保育サービスを提供していることが一定市民の方にも認知いただいているところかと捉えています。

委員

「まち・ひと・しごと」の原点は、人口を減らさないということだと思えます。以前の人口目標設定の際の議論で、私が言っていた通り人口40万人になったという思いがあります。原点である人口をなんとか増やそうではないかとの国の考え方に反対だというのであれば仕方ありませんが、そうでなければ目標はある程度、上のほうで設定すべきではないかと考えます。結果的にそこに届かなかつたらそれは反省する必要があるでしょうが、最初から下のほうに当て物的に設定をしているケースを感じる事が多く、民間企業でそういうことをやると問題になってくると思われます。思い切って高い目標を掲げるような方向で、市の中でいろいろな議論をしていただきたいと思えます。

会長

委員は、豊中市の可能性の高さをよくご理解されていたことが、今回の結果として出たように思えます。豊中のブランドの高さを、もう少し価値あるものだと捉え直して、その価値あるもの

をどう生かしていくのか、思い切って打って出ることがよいのかもしれませんが。価値の高さを積極的に活用する姿勢をご指摘いただいたかと思えます。

今日のみなさま方のご意見で取り入れられるところがありましたら、ぜひご検討いただけたらと思えます。

続きまして、転出入アンケートについて事務局から説明をお願いします。

(事務局より 資料3「転出入アンケートについて」説明)

会長

7ページ(転入にあたって 情報収集)の円グラフから、親しい人からの口コミは非常に強く意識しなければならないことがわかります。政策の善し悪しが効いているともいえ、豊中市がいいねという人の割合がどんどん増えていくことが、重要なのかもしれません。

委員

回答率が低いように感じています。2%や7%とといいますと研究する時にその割合でしたらエビデンスだといえないと思います。これはどのようにとらえたらいいですか。

会長

仮説として、参考として、まずは活用していくことになると思えます。アンケートの数を増やしていくことが一番の課題となっています。アンケートを増やす為には何が良いのかだと思います。沖縄旅行といった景品を出すことも考えられます。行政がやる場合は何がふさわしいのかを踏まえて、いろいろ議論していただきたいと思えます。

委員

以前から豊中市を知っていれば、ここに住んだのではないかと魅力を感じています。その理由は、アンケート結果と全く同じで、交通の利便性が良い、いろいろな住環境が整っていることに非常に満足度を感じます。一方で、もし嫌な点があるとすれば、アンケートと同じで、自動車や自転車、人が非常に歩きにくそうにしている点、南北の移動手段はあるけれど東西は少ない点、飛行機の騒音が気になる点です。回答者数が少ないとはいえ、外から見ても同じ感想です。

一番の魅力である交通の便に関しては、大きな魅力ではあるとは思いますが、コロナ禍で人々の行動様式が大きく変わっています。果たして交通の便が良いことが選ぶ第1理由になるのかについては、引き続き注視が必要と感じました。

委員

アンケートはQRコードを読むので、どうしても若い世代の方が多く答えてしまい、転出入の割合とはちがっており、バイアスがかかっている点は一定注意が必要かと思えますが、データとしては貴重なものですので、ぜひ活用していただければと思えます。

興味がある点は、6ページの「転入 認知度と他市との検討」の「他のまちとも検討したが、豊中市に決めた」という方々です。この人たちがなぜ豊中を選んだのかによって、他の所と比べて

豊中の良かったことが、見えてくるのではないかと思います。そういったところも分析していただければと思います。

委員

日常生活に必要なお店に関して、揃っているのが魅力という方も多い中、揃っていないと答えた人も多くあって、なぜなのかと思いました。各駅に商店街もありますが、大きいショッピングモールがないと魅力がないことになるのだろうかと考えながら見ていました。

地域別については、南部の数値に特徴があり、何となく日頃感じている地域ごとの特徴のとおりだという気がしています。

委員

アンケートは、旅行か何か景品が当たるとかでないと、なかなか難しいです。全庁的に活用できるようにすれば、本当に価値があると思います。

委員

アンケートは、答える人にいろいろな情報が入ってきて、サービス精神で質問をしている人が何を好んでいるかにあわせようとするところがあり、難しいと感じています。私も調査をやり続けていますが、いかにしてそのサービス精神を破壊していくかに精力を費やしています。

吹田市に行って豊中市のことを聞いたら何て言うのだろうかや、箕面市に行って豊中市のことを聞いたらどうだろうかなど、そのように壊していく作業もしなければ、耳に心地良い言葉ばかりが集まってしまう可能性があります。もちろん、それが全てではありませんが、そのようなことも必要ではないかと思いました。

会長

20 ページにアンケートを全庁的に活用とありますが、現在庁内の方からなんらかの評判といったものがあるのでしょうか。

事務局

今のところ、都市経営部内だけの取り扱いとなっていますが、これから母数が増えて行くことで、より信用度が高いものになると考えています。それを基に政策立案に生かしていきたいというのが将来的な目標です。

会長

ぜひ、統計的にも問題がないというレベルにしていただき継続していただければ、データに基づいて議論ができるという強みになるのではないかと思います。よろしくお願ひしたいと思ひます。

■ 4. 令和 3 年度地方創生関係交付金に係る事業報告について

会長

続きまして、案件 4「令和 3 年度地方創生関係交付金に係る事業報告について」事務局から説明をお願いします。

事務局

(「【資料 4】 令和 3 年度地方創生関係交付金に係る事業報告について」をもとに説明)

会長

就労困難者のみなさまが写真で就労できていく状況を拝見させていただくことは、いつもいいなと思っています。

委員

全ての事業が実施され、継続されるとの理解でよろしいでしょうか。それとも一部でしょうか。

事務局

現段階では確定していませんが、本事業のような個々の状況に応じた個別支援を今後実施する方向で考えています。

委員

今後、事業で進んでいるものを上手く市の施策・制度に載せて継続的にやっていくとの理解でよろしいでしょうか。今回 KPI がしっかりと達成されましたが、協力事業者さんが多いのが豊中市らしいと思いました。みんなで支えていこうというのが見えたのではないかと思います。

一点、協力事業者さんとお話していて、よく言われるのが、就職がゴールではないということです。働きだしても、ちょっとしんどい、3 カ月程働いたけどドロップアウトしてしまったなど、働いた後のケアがとても重要です。そこをちょっと支えるだけでその人たちの就業期間は 3 カ月が 6 カ月になり、1 年になり、定着していくことができます。ぜひ、今後、市の施策にのせていく時にはケアの方もご検討いただければと思います。

会長

何か月間でお辞めになられることがないようにというのは重要なことだと思います。この事業は今後やっていただけるとのことですので、ぜひ進めていただきたいと思います。

■ 5. その他

会長

それでは、案件 5「その他」について事務局からお願いします。

事務局

(連絡事項「今後の日程について」説明)

会長

本日の案件はすべて終了しました。これをもちまして「第2回豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会」を閉会いたします。

(以上)